

## 要旨

Talmy (1991, 2000) の枠付け類型論以来、ノルウェー語を含むゲルマン諸語は、経路を主動詞以外の要素で表す経路主要部外表示型であるとされてきた。しかし、ノルウェー語に関しては、どのような種類の経路でも経路主要部外表示型と言えるか否かについて議論がなされてこなかった。そこで、本発表では、国立国語研究所 MEDAL プロジェクトで開発された通言語的ビデオ実験 (C 実験) の結果を分析し、以下の三点を明らかにする。第一に、ノルウェー語が一貫して経路主要部外表示型であること、第二に、経路の種類によっては僅かながら経路が主動詞で表示される場合があること、そして第三に、様態の種類が経路の表示位置に影響を与えることである。また、それらの分析を厳密な意味で行うために、先行研究において検討が不十分であった動詞 *gå* の直示性の有無について新しい分析を提示する。

## 1. はじめに

- Talmy (1985) は、移動に関わる意味要素 (移動物・様態・経路・参照物) のうち動詞で表される要素が移動物と様態と経路のいずれかという点に注目し、世界の言語の類型化を試みた。
- Talmy (1991, 2000) は、上記意味要素の中で経路が移動全体を枠付けると考え、その表現位置により、言語を大きく動詞枠付け言語と付随要素枠付け言語に二分した。本発表では、それらにほぼ相当する松本 (2017) の用語を用い、前者を「経路主要部表示型」と呼び、後者を「経路主要部外表示型」と呼ぶ<sup>2</sup>。
- Talmy の枠付け類型論以来、ノルウェー語<sup>3</sup>を含むゲルマン諸語は、以下のノルウェー語の例 (1) のように、様態を主動詞で表し、経路を主動詞以外の要素で表す経路主要部外表示型であるとされてきた (Holum 2009; Johansen 2011; Dimitrova-Vulchanova *et al.* 2012; Egan & Gaedler 2015)<sup>4</sup>。

(1) En gutt går fra bordet.  
a boy walk.PRS from table.DEF

「男の子が机から歩いて離れていく。」 (C1-03, Torkel)<sup>5</sup>

- ところが、ノルウェー語の移動表現に関するこれまでの研究には大きく二つの問題点がある。
- **問題 A:** いかなる経路の種類についても経路主要部外表示型と言えるかどうか証明されていない:
  - 例えば、経路の種類によって経路動詞による表されやすさに差異がある可能性がある。実際、松本 (2017: 340) は、上下方向を表す経路が主動詞で表されやすいという通言語的な傾向を報告している。
  - そのため、多くの種類の経路を考察対象とする必要がある。

<sup>1</sup> 本発表は、国立国語研究所共同プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法 (動詞の意味構造班)」の成果である。また、本発表に関する内容については、古賀裕章、松本曜、長屋尚典、岡本進、佐田陸、鈴木唯、高城隆一、山本恭裕の各氏に貴重な意見をいただいた。なお、本発表の誤りは言うまでもなく全て筆者の責任である。

<sup>2</sup> 松本 (2017: 6) が指摘しているように、Talmy の用語法には付随要素に動詞の分詞形が含まれてしまうなどの問題がある。

<sup>3</sup> 「ノルウェー語」には、ブークモール (bokmål) とニーノシュク (nynorsk) の二種類が存在する。前者は、デンマーク語にノルウェー的要素を徐々に加味することによって形成されたものであり、後者は西ノルウェーの諸方言を中心として各地の方言を基に創造されたものである (森 1990)。本発表は、ブークモールに近い方言を話すオスロ周辺地域出身者を対象に行った実験結果に基づいている。

<sup>4</sup> 本発表で用いる略号は、以下の通りである: DEF-definitive, PRS-present, PST-past, PTCP-participle

<sup>5</sup> 本発表で用いる例文は、「作例データ」と記してあるもの以外全て実験データから引用したものである。「実験番号-刺激番号、協力者のあだ名」の順番で示している。

- ・ **問題 B:** 経路の構成要素である直示についての検討が不十分である:
  - (1) の主動詞 gå は、Egan & Gaedler (2015) では様態 WALK の意味を持つ場合と直示 GO の意味を持つ場合があるとされ、Holum (2009) や Johansen (2011) では様態 WALK の意味を持つ場合と様態中立の意味を持つ場合があるとされてきた。
  - Talmy (2000: 53) は、直示を経路の一つと分析している (cf. 松本 2017)。本発表においても直示を経路の一つとして考えることとする<sup>6</sup>。
  - 動詞 gå が直示 GO の意味を持つか否かは、ノルウェー語が厳密な意味で経路主要部外表示型言語であると言えるかどうかに関わるため、検討が必要である。動詞 gå が直示の意味を持つなら (1) において動詞で経路が表現されていると言えるからである。
- ・ そこで本発表では、ノルウェー語の主体移動表現を実験データから捉え直し、以下の主張を行う:
  - (2) a. 動詞 gå は、有生物主語の主体移動表現の場合、直示性を持たず様態 WALK の意味のみを持つ。
  - b. ノルウェー語は、一貫して経路主要部外表示型である。
  - c. 経路の種類が ACROSS や PAST の場合は、僅かながら経路が主動詞で表示されることもある。
  - d. 様態の種類が WALK であるか RUN であるかによって、経路の表示位置が影響を受ける。
- ・ 本発表の構成は、以下の通りである:
  - 第2節: 今回行った通言語的実験を導入し、ノルウェー語についての実験の概要を述べる。
  - 第3節: 移動の意味要素を表現するものとしてどのような形式があるかを品詞ごとにまとめる。
  - 第4節: 動詞 gå について議論する。
  - 第5節+第6節: 実験結果を示したうえで、その結果について議論する。
  - 第7節: 本発表をまとめる。

## 2. ビデオ実験の概要とその実施

- ・ 本研究では、国立国語研究所 MEDAL (Motion Event Descriptions across Language) プロジェクトで開発されたビデオ実験のうち、複数の経路の表示位置に焦点を当てる C 実験を用いた。
  - 15 の経路場面 FROM, TO, TOWARD, PAST, VIA (+BETWEEN/UNDER), ALONG, AROUND, INTO, OUT, ACROSS, THROUGH, OVER, UP, DOWN を含む 44 本の刺激映像を被験者に視聴してもらい、その場にいるように想像しながら、映像刺激の内容を言語化してもらった。
- ・ ノルウェー語についての実験は以下の要領で行った:
  - 実験キットは、ノルウェー語に訳したものをを用いた。
  - 20 名 (19 歳から 36 歳; 男性 15 名、女性 5 名) のノルウェー語母国語話者を対象に、日本国内で実験を行った。方言差を最小限にするために、実験参加者はオスロ周辺出身者に限った。
  - ELAN を用いて文字起こしし、実験共通のコーディングシートを用いてコーディングを行った。

## 3. ノルウェー語の移動を表現する要素とそのコーディング

- ・ コーディングは、録音した文のうち移動表現に関わる語のみを抽出し、それぞれの語の節情報、意味、品詞形態、機能を分析した。
- ・ 本節では、移動に関わる意味要素である、様態 (3.1)・経路 (3.2)・直示 (3.3) を表現する形式をまとめる。

<sup>6</sup> 直示がそれ以外の経路とは異なる振る舞いをする言語が多いため、松本 (2017: 15) は、直示を経路と別に扱う必要性を主張している。

さらに、経路表現の形式が複雑な場合は、それらをどのようにコーディングしたかについても説明する。

### 3.1 様態を表現する形式

#### 3.1.1 動詞による様態表現

- ・ ノルウェー語には、(3) のように様態動詞が数多く存在する。様態動詞には、(4) のように主動詞で表される用法と (5) のように分詞で表される用法がある。

(3) spasere「歩く、散歩する」, traske「重い足取りで (とぼとぼ) 歩く」, tusle「(静かに、ゆっくり) 歩く」, krype「四つん這いで歩く」, jogge「(軽く) 走る」, løpe「走る」, spurte「力走りする」, springe「走る」, sprinte「(短距離を) 全速力で走る」, småløpe「小走りする」, hoppe「飛ぶ、跳ねる」, rulle「転がる」, trille「転がる」, vandre「さまよい歩く、歩き回る」等。

(4) En mann løper over en vei. (5) En mann krysser løpende en vei.  
a man run.PRS across a road a man cross.PRS running.PTCP a road  
「男が道を走って渡った。」 (C1-18, Truls) 「男が走りながら道を渡る。」 (作例データ)

#### 3.1.2 副詞による様態表現

- ・ 様態を表す副詞には (6) のようなものがある。(7) のように、主に動詞の直後に用いられる。

(6) fort「速く」, langsomt「ゆっくりと」, lett「軽く」, rolig「ゆっくりと」, sakte「ゆっくりと」等。

(7) En mann går sakte mellom to trær.  
a man walk.PRS slowly between two trees  
「男がゆっくり 2 本の木の間を歩く。」 (C1-29, Truls)

### 3.2 経路を表現する形式

- ・ 移動の経路を表す形式には、前置詞 (3.2.1)、副詞 (3.2.2)、副詞と前置詞の組み合わせ (3.2.3) 及び動詞 (3.2.4) がある。前置詞と副詞の経路概念 (経路局面と位置関係)<sup>7</sup> については、松本 (2017) を参考にする。

#### 3.2.1 前置詞による経路表示

- ・ 前置詞<sup>8</sup>としては、以下の表 1 のようなものがある。

表 1. ノルウェー語の経路を表す前置詞

経路局面	起点	fra (FROM), ut (OUT)
	通過点	forbi (PAST), gjennom (THROUGH), langs (ALONG), mellom ((VIA/TO)BETWEEN), over (OVER/ACROSS), rundt (AROUND), under ((VIA/TO)UNDER), via (VIA)
	着点	til (TO), inn (TO IN)
位置関係	på (ON), av (OFF, OF), i (IN)	
方向	mot (TOWARD) opp (UP), ned (DOWN)	

<sup>7</sup> 経路局面とは、起点、通過点または通過領域、着点の三つの移動の局面に対応する経路部分を指す (松本 2017: 17)。一方で、位置関係とは、起点、通過点または通過領域、着点が参照物に対してどの位置にあるかを示す (松本 2017: 17)。

<sup>8</sup> 複数の前置詞句を以下の (i) のように並べることで、複数の経路表示が可能である。

(i) Hunden løper fra målet under benken og inn i buret.  
dog.DEF run.PRS from goal.DEF under bench.DEF and (to)in in cage.DEF  
「犬がゴールを出て、ベンチの下をくぐり、カゴの中に入った。」 (C1-41, Håkon)

- ・ opp (UP) / ned (DOWN) や inn (TO IN) / ut (OUT) は、副詞としての機能 (3.2.2) もあるが<sup>9</sup>、目的語が後続する場合は、前置詞としてコーディングした。目的語は、(8) の「階段」や (9) の「ドア」のように通過領域を示すものに限られ、参照物 (例えば、「頂上」や「部屋」など) は不可である。

(8) En dame går opp/ned en trapp. (9) En mann løper inn/ut en dør.  
 a woman walk.PRS up/down a stair a man run.PRS (to)in/out a door  
 「女が階段をのぼる。」 (C1-07, Tanya) 「男がドアから走って入る/出る。」 (C1-12&14, Mai)

表 2. 経路局面 + 位置関係を表す副詞

経路局面 位置関係	TO
IN	inn 「中へ」
OUT	ut 「外へ」

### 3.2.2 副詞による経路表現

- ・ inn や ut は、通過領域を表す目的語が後続する場合 (3.2.1) 以外、副詞としてコーディングした。その場合、表 2 が示すように、inn は、経路局面 TO と位置関係 IN を包入<sup>10</sup>し、ut は、経路局面 TO と位置関係 OUT を包入する。(10) のように用いられる。

(10) Jeg løp {inn/ut}. (11) Mannen løper vekk fra bordet.  
 I run.PST {(to)in/out} man. DEF run.PRS away from table.DEF  
 「私は走って {入った/出た}。」 (作例データ) 「男が机から走って離れる。」 (C1-04, Herman)

- ・ その他 (11) のように、経路 AWAY を表す bort や vekk が副詞として出現した。

### 3.2.3 副詞と前置詞の組み合わせ

- ・ ノルウェー語は (12)・(13) の inn i と ut av のように同種の経路概念が重複して表現されることがある。
- ・ その場合、(12)・(13) の「建物」のような参照物を目的語としてとれない (3.2.1) という理由から、inn と ut を副詞としてコーディングした。i と av は、前置詞としてコーディングした。

(12) Han gikk inn i bygget. (13) Han løp ut av bygget.  
 he walk.PST (to)in in building.DEF he run.PST out of building.DEF  
 「彼は建物に歩いて入った。」 (C1-11, Bjerne) 「彼は建物から走って出た。」 (C1-14, Bjerne)

- ・ このように一つの経路を複数の品詞で表す<sup>11</sup>のは興味深く、移動の類型論の観点からも注目に値する。

### 3.2.4 動詞による経路表現

- ・ ノルウェー語の経路動詞には、(14) のようなものがある。(15) のように主動詞として用いられる。
- (14) falle 「落ちる」, krysse 「渡る、横切る」, forlate 「離れる」, passere 「通過する」, nå 「到達する」, bestige 「登頂する」, synke 「沈む」, entre 「入る」や returnere 「戻る」等。

(15) Ballen falt ned i vannet. (16) Han går ut av bygningen.  
 ball. DEF fall.PST down in pond.DEF he walk.PRS out of building.DEF  
 「ボールが池の中に落ちた。」 (C1-40, Michael) 「彼は建物から歩いて出た。」 (C1-13, Simen. L)

<sup>9</sup> 以下 (ii) のように副詞として用いられることも多い。

(ii) Jeg løp {opp/ned}.  
 I run.PST {in/out}.  
 「私は {上に/下に} 走った。」 (作例データ)

<sup>10</sup> Talmy は、複数の意味要素が一つの語に語彙化されることを包入 (conflation) と呼んだ (松本 2017: 2)。

<sup>11</sup> ここでは、INTO や OUTOF の経路を表すために、副詞の inn/ut は義務的である。(13) は inn なしでは「彼は建物の中で歩いた」という移動ではなく場所を表す意味になり、(14) は ut なしでは非文法的になる。

- ・ ノルウェー語は、英語とは異なりノルマンコンクエストによるロマンス諸語からの借用語が少ないため、経路動詞が少なく (Egan & Graedler 2015: 21)、「出る」や「下りる」に相当する経路動詞は存在しない。(16) のように、主要部外要素で経路を表現する。

### 3.3 直示を表現する形式

- ・ 先行研究 (例えば Holum 2009; Johansen 2011; Egan & Gaedler 2015) において移動表現の記述に「直示」という用語は用いられてこなかった。
- ・ しかし、実際には、ノルウェー語には英語の come に相当する komme と go に相当する dra という直示動詞が存在する。それぞれ (17) と (18) のように主動詞で用いられる。

(17) Han kommer ut fra bygningen. (18) Jeg drar til Oslo.  
he come.PRS out from building.DEF I go.PRS to Oslo

「男が建物から出てくる。」 (C1-13, Erlend) 「私はオスロに行く。」 (作例データ)

- ・ さらに重要なことに、様態 WALK と直示 GO の意味を併せ持つとされている (Egan & Gaedler 2015) 動詞 gå [gp:] がある<sup>12</sup>。それについては、次の第4節で議論することとする。

## 4 動詞 gå に関する議論

- ・ 本節では、ノルウェー語の動詞 gå が、有生物主語の主体移動表現の場合、様態 WALK の意味のみを持ち、直示 GO の意味は持たないということを明らかにする。
- ・ ノルウェー語の動詞 gå の直示性について、英語の直示動詞 go との比較により考察する。ただし、今回の実験対象である有生物主語の主体移動表現の場合のみに話を限る。
- ・ Fillmore (1997: 83) によると、英語の直示動詞 go は、「発話時の話者から離れた場所に向かう移動を指す」条件下で用いられるが、ノルウェー語の gå は (19)・(20) が示すように、方向に関する制限がなく、話者に歩きながら近づく移動事象も表現できる。

(19) En dame går hit. (20) En dame gikk til meg.  
a woman walk.PRS to.here a woman walk.PST to me

「女がこちらに歩く。」 (作例データ) 「女が私の所まで歩いてきた。」 (作例データ)

- ・ また、英語の直示動詞 go は、表現できる移動の様態に制限がないが、ノルウェー語の gå は (21) のように様態が WALK の場合にのみ用いることができる。一方で様態が RUN や DRIVE の場合には、話者から離れた場所に移動する場合であっても、(22) のように gå でなく別の様態動詞を用いなくてはならない。

(21) Personen går til bordet. (22) Personen løper/kjører til stasjonen.  
person.DEF walk.PRS to table.DEF person.DEF run/drive.PRS to station.DEF

「人が机まで歩く。」 (C1-05, Jan) 「人が駅まで走る/運転する。」 (作例データ)

- ・ こうして、有生物主語の主体移動表現の場合、動詞 gå は様態 WALK の意味のみを持つと分析できる。

<sup>12</sup> この動詞の語源に関しては、Oxford English Dictionary (Simpson & Weiner 1989: 617) で以下のような説明がある。“The Scandinavian langs. have forms which appear to belong to this vb. (=English *go* 引者注): ON. inf. *gá* (late and rare), Sw. *gå* (pres. tense *går*, etc.), Da. *gaa*(e) (pres. tense *gaar*, pa. pple. *gaaet*); but it is possible that these may have been evolved from the pa. tense *gekk* of *ganga* (GANG v.), on the analogy of *fá*, *fekk*.”

## 5 実験結果

図 1. 主動詞での M (様態)・D (直示)・P (直示) 指定率

- 図 1 は、様態 (M・青)・経路 (P・赤)・直示 (D・緑) のうちどの要素が主動詞として表現されるかを経路の種類別に示している:
- 第 4 節で、動詞 gå は様態 WALK の意味のみを持つと分析した。この分析結果は、図 1 で、どの経路でも主要部が様態 (M) のみとなっていることと符合する。
- 仮に直示 go の意味も持つという分析結果であったとすれば、図 1 は半分ほど直示 (D) も含むグラフとなったはずである。
- 図 2 は、経路の種類ごとの主動詞表示率を示している:
- 経路の種類が /ACROSS/ と /PAST/ の場合に、主動詞で経路が表示されるケースが僅かに観察された。

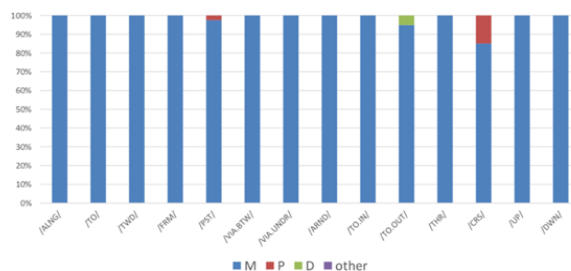


図 2. 経路場面の種類ごとの主動詞率

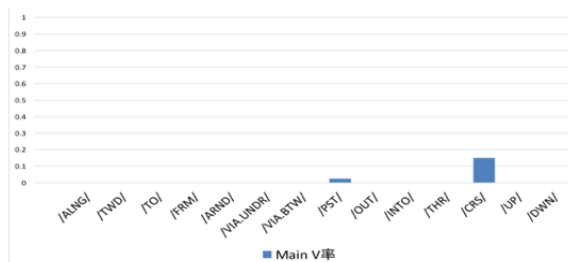


図 3. 経路場面の種類ごとの副詞使用率

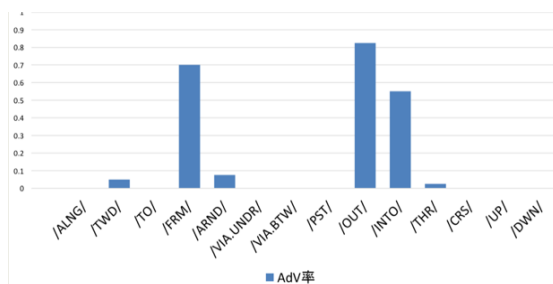
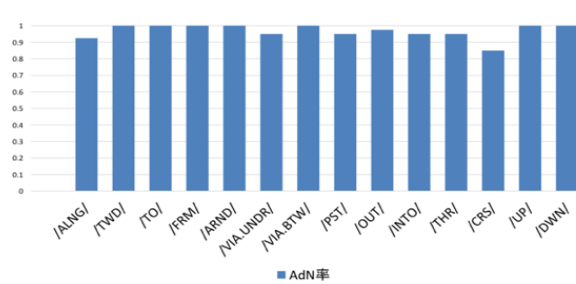


図 4. 経路場面の種類ごとの前置詞使用率



- 図 3 は、経路場面の種類ごとに経路情報が副詞で表される確率を示している:
- /UP/ や /DOWN/ などの場面では、副詞は用いられず前置詞が用いられた。
- /INTO/ の場面では、38 例中 22 例で副詞 inn が位置関係を表す前置詞 i と共起した。一方、/OUT/ の場面では、39 例中 33 例で副詞 ut が位置関係を表す前置詞 av と共起した。
- /FROM/ の場面では、40 例中 28 例で AWAY を表す副詞 (bort や vekk) が前置詞 fra (FROM) と共起した。
- 図 4 は、経路場面の種類ごとに経路情報が前置詞で表される確率を示している:
- 全ての経路場面において前置詞が高確率で用いられた。
- /ACROSS/ の場面では、経路が数回主動詞で表され (図 2)、他の経路場面と比べて前置詞使用率が低い。

## 6 議論

### 6.1 移動類型論における位置付け

- ノルウェー語は、経路の種類を問わず一貫して経路主要部外表示型である。図 1 が示すように、どの種類の経路でも、様態が主動詞で表され、経路が主要部外要素で表される。

### 6.2 経路の種類による若干のゆれ

- 経路場面が /ACROSS/ の場合は 40 例中 6 例、/PAST/ の場合は 1 例のみ経路が主動詞で表された (図 2)。
- このように経路の種類によって、経路主要部表示率に若干のゆれが観察されたが、全体の傾向として一貫して経路主要部外表示型である。

### 6.3 様態の種類と経路の表示位置との関係

- ・ ノルウェー語では、様態の種類が経路の表示位置に影響を与える。
- ・ 様態が WALK の場合は、(23) のように 298 例中 289 例の高確率で様態が主動詞で表された。
  - しかし、(24)・(25) のように経路動詞や直示動詞が主動詞で表される場合も観察された。これらは、様態と経路と直示が主要部の位置を巡って競合していることを示す。
- ・ 一方、様態が RUN の場合は、(26) のように様態が一貫して主動詞によって表される。
  - (27) のように主動詞で経路を表し分詞で様態を表すことも文法上はあり得るはずであるが、そのような使用例は今回の実験では一度も観察されなかった。

(23) En	dame	går	over	veien.	(24) En	dame	krysser	veien.	
a	woman	walk.PRS	across	road.DEF	a	woman	cross.PRS	road.DEF	
「女が道を歩いて渡る」 (C1-17, Ada)					「女が道を渡る。」 (C1-17, Michael)				
(25) Han	kommer	ut	fra	bygningen.	(26) En	mann	løper	over	veien
he	come.PRS	out	from	building.DEF	a	man	run.PRS	across	road.DEF
「男が建物から出てくる。」 (C1-13, Erlend)					「男が道を走って渡る。」 (C1-18, Ada)				
(27) En	mann	krysser	løpende	veien.					
a	man	cross.PRS	running.PTCP	road.DEF					
「男が走りながら道を渡る。」 (作例データ)									

- ・ 松本 (2017: 11) は、予測可能な移動様態 (WALK など) の場合に、様態情報が省略され、主要部外表示型と考えられる言語でも主要部表示型の表現が用いられることがある旨を指摘している。同様のことがノルウェー語にも当てはまると言える。

## 7 おわりに

- ・ 本発表は、国立国語研究所 Motion Event Descriptions across Language (MEDAL) プロジェクトで開発されたビデオ実験 (C 実験) を用いて、ノルウェー語の移動表現について (2) を明らかにした。

## 参考文献

- Dimitrova-Vulchanova, M. & L. Martinez. 2013. A basic level for the encoding of biological motion. In Carita Paradis, Jean Hudson, & Ulf Magnusson (eds.), *The Construal of Spatial Meaning*, 144–168. Oxford: Oxford University Press. / Egan, T. & A. L. Graedler. 2015. Motion into and out of in English, French and Norwegian. *Nordic Journal of English Studies* 14 (1). 9–33. / Fillmore, C. J. 1997. *Lectures on Deixis*. Stanford: CSLI Publications. (Original work published 1977). / Holum, L. M. 2009. *Språkspesifikk konseptualisering og muntligandrespråksproduksjon – en studie av uttrykk for bevegelsesmåte hos avanserteandrespråksinnlærere av norsk med spansk som førstespråk*. UiO dissertation. / Johansen, S. C. 2011. *Går på tur aldri sur - En korpusbasert studie av bevegelseshandlinger og morsmålstransfer i innlærertekster fra voksne informanter i norsk som andrespråk*. UiO dissertation. / 松本曜. 2017. 「移動表現の類型論に関する課題」松本曜 (編). 『移動表現の類型論』1-24、東京: くろしお出版. / 森信嘉. 1990. 『ノルウェー語文法入門-ブークモール』東京: 大学書林. / Simpson J. A. & E. S. C. Weiner. 1989. *The Oxford English Dictionary 2<sup>nd</sup> edition*. Oxford University Press. / Talmy, L. 1991. Path to realization: A typology of event conflation. *Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society* 17. 480–519. / Talmy, L. 2000. *Toward a Cognitive Semantics*, Vol. 2: *Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, MA: MIT Press.